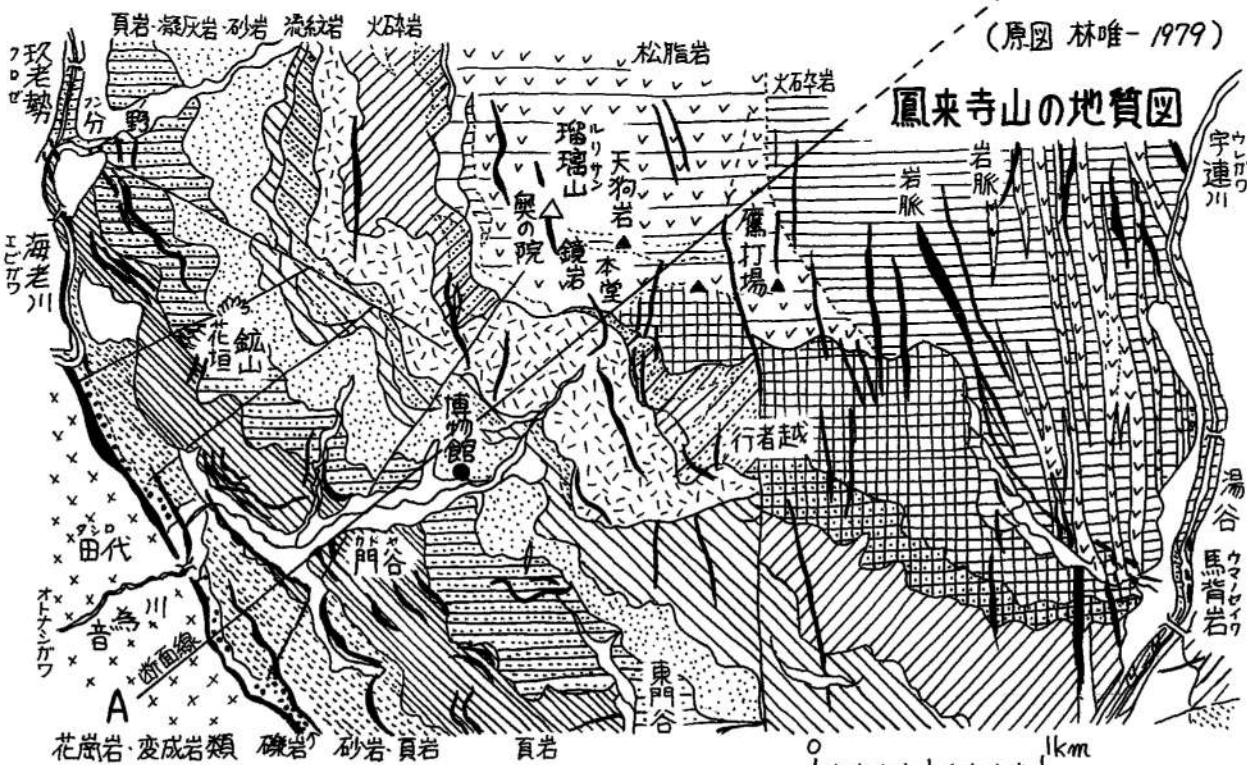
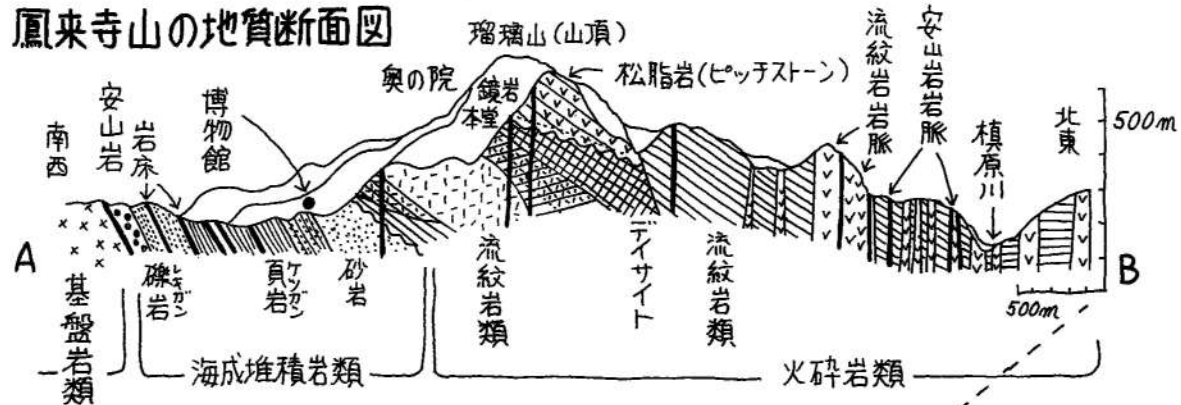


鳳来寺山の地質断面図



鳳来寺山

昭和6(1931)年の国指定名勝天然記念物。
 約1800万年前の古瀬戸内海の時代に堆積した砂泥からなる海成層の上におよそ1500万年から1300万年前頃まで続いた設楽地方一帯の火山活動で噴出した火山灰や火砕流、溶岩などが厚く重なっている。
 今では設楽火山のほととの姿は、あと形もなく浸食されてしまい、特に固い岩石のところだけが、鳳来寺山やその他の設楽地方の山々となって残っている。
 鳳来寺山を形づくる代表的な岩石の「松脂岩」(ピッチストーン)は2010年に「新城市の石」に制定され、2016年には日本地質学会によって「愛知県の石」に選定された。

田代では、この地方の基盤岩になっている花崗岩が観察できる。音為川に沿って上流へ向かうと、表参道石段入口までは、砂泥の地層が現れる。石段が始まるあたりからは、地質が火成岩類にからり変わる。石段には鳳来寺山を形成する流紋岩、デイサイト、安山岩等が使われている。ただし、仁王門や本堂付近の石段や、石仏には砂岩(玖老勢石)が使われている。約2kmの道のりで、1億年の時間旅行ができる。

コハズク(声の仏法僧)

昭和10年のラジオ実況放送で、鳴き声の正体がコハズクと判明した。古くから霊鳥として愛され、昭和40(1965)年に「愛知県の鳥」、平成22(2010)年に「新城市の鳥」に制定された。
 4月下旬から6月にかけて、夕刻から未明に「ブッポーソ」とくりかえし鳴く。昔はブッポウソウが鳴くと思われていた。



利修仙人

今から1300年ほど昔、鳳来寺を開山したとされる。鳳凰に乗って京を往来したので鳳来寺となったといわれる。

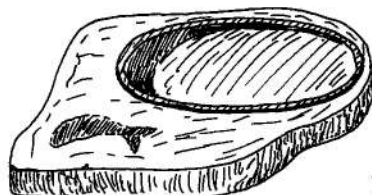


東照宮

日光、久能山と並ぶ日本三大東照宮。慶安4(1651)年に第三代将軍徳川家光の指示で創建された。国の重要文化財。

鳳来寺硯

岩質により金鳳石、鳳鳴石、煙巖石がある。江戸時代からの古い歴史があり、現在2軒が製作している。



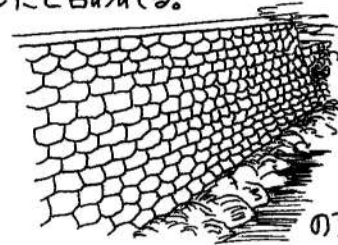
鐘楼

鐘には棟方志功の十二神将図と、藤本賢佑の鐘銘がある。



代官屋敷

鳳来寺代官の屋敷跡。奥平氏の家老庄田氏により、代々代官をつとめた。川に面した石垣は嘉永三年の出水で改修されたもので、百両を要したといわれる。



ホソバシクナゲ

鳳来寺山以北の奥三河と遠州の一部にだけ自生する。4月下旬から5月上旬に淡紫紅色の花を咲かせる。旧鳳来町の花。



モリアオガエル

全身が緑色で、黒茶色の斑紋がある。5月中旬から産卵し、椿の枝先などに卵塊をつくる。オタマシクワシは空中の卵塊のアワから落ちて、水中で育つ。市のカエル。



田口鉄道

昭和4(1929)年開通、昭和43(1968)年廃線。
 本長篠駅から三河田口駅までの22.6kmの路線で、昭和7年に全線が開通した。トンネル24ヶ所、鉄橋梁17ヶ所、高低差252mの線路であった。鳳来寺山もみじ祭りには臨時電車も出るほどにぎわった。

